

食料・農業・農村政策審議会企画部会（第125回） 議事概要

1. 日時：令和8年4月16日（木）10:30～12:01
2. 場所：農林水産省第2特別会議室
3. 出席委員：
中嶋部会長、赤松委員、井岡委員、稲垣（公）委員、稲垣（照）委員、大吉委員、小倉委員、小針委員、齋藤委員、神農委員、竹下委員、徳本委員、南島委員、堀内委員、堀切委員、宮島委員（以上、対面出席）、秋元委員、福田委員（以上オンライン参加）
（磯崎委員、内藤委員、八木委員は欠席）
4. 議題：令和7年度食料・農業・農村白書本文（案）
5. 主な発言内容：
（赤松委員）
 - ・ 前回企画部会で指摘した箇所について、対応いただき、感謝申し上げます。
 - ・ トピックス2の昭和100年について、本文のリード文で特別企画と記載されているが、目次ではトピックス1、2となっており、両者が同等に扱われているように見える。目次にもトピックスだけではなく、特別企画という見出しを付けられないか。また、最後のページの記載内容が、リンゴやブドウの具体的な開発例等の詳細な内容で終わっているが、一般的に論文等では大きな話に広げて終わるため、最後の書きぶりを検討してもらいたい。
（小倉委員）
 - ・ 特集のP. 1の「民間貿易による輸入量の増加が国内生産に影響を及ぼすことが懸念される」旨の記載について、国内生産量が足りない中、関税を支払ってでも民間貿易の輸入をしていたというのが実態だと思うので、こちらの記載は削除してもらいたい。
 - ・ トピックス2の本文案のP. 17について、「農地改革」と記載されているが、地主から取り上げて小作農に農地を分け与えたことから「農地解放」と記載すると良いと考える。
P. 19の「スプロール化」は分かりにくいいため、表現を工夫してもらいたい。
P. 21に消費者関係の記載がされているが、生協や有機農業の動きについても記載してほしい。
 - ・ 1章1節のリード文で世界の食料需給と食料の国際価格について記載しているが、これらは関連性があるため、需給が緊迫し、価格の不安定化につながっていると記載してほしい。
P. 31～32のサステナブルファイナンスについて、人権に関する内容が記載されているが、環境や水等の様々な分野が関係する。また、食料価格の中にバイオ燃料に関する記載があるが、バイオ燃料はどちらかというと食料需給の話。一方、サステナブルファイナンスは流通、食料価格の関係になるため、小見出しの順番を変えるのが良いのではないか。
 - ・ 1章4節のP. 60の図表について、1章1節の海外需給に移動するのが良いのではないか。

また、章節内の記載順序について可能であれば、①平時からの対策、②食料自給力シミュレーション、③備蓄の対応、④国内の生産増加⑤輸入の必要性の順で記載いただくと、1章5節の輸入の関係ともつながりが良くなるのではないかと。

- ・5章1節のP. 194で気温について記載されているが、世界の気温の上昇と比較しても我が国の上昇が非常に大きいことを記載してほしい。

(神農委員)

- ・特集P. 1で民間貿易による輸入量の増加、P. 9で生産性向上の話がそれぞれ記載されている。特に業務用は外国産米の使用が増えていることから、食料安全保障を確保するためには、国産米の需要を奪還することが重要であることについても記載してほしい。
- ・トピックス2について、グローバル化や規制緩和等の新自由主義的な政策で、農村は疲弊したと考えている。新自由主義的な政策から脱却し、食料安全保障が位置付けられたことが大変重要なため、こうした変遷についてわかりやすい記載があればよい。
- ・自然災害について、豪雪の被害が多く出ているため、対応の必要性を記載してほしい。
- ・全般的に良くできており、JAの活動や考え方も紹介していただき感謝。多くの人に白書を読んでもらいたいと考える。

(堀切委員)

- ・読み物としても非常に面白いものになっており、大変ご苦勞であったと思う。概要案にある俯瞰図は、全体を見る際に助けとなるものであり非常に理解しやすい。前回企画部会で指摘した箇所も対応されており、感謝申し上げます。
- ・特集は、非常にタイムリーな話題で、世間の関心も高く熱の入った内容となっている。一方、概要案と本文案を見比べると、ほぼ同じ内容となっているため、概要案をもう少しコンパクトにさせていただくとより良いと思う。消費者側の目線で見ると、生産と需要の把握だけではなく、流通実態の把握が重要であると考えており、今回の米の一連の事象については、どういう業者が関わっているかを把握できていなかったことが肝となっていると考えている。P. 6の最後のパラグラフが全てを物語っており、ここのみでも十分と考える。
- ・3章1節の概要案のP. 36に、農林水産物・食品の輸出額の時系列のグラフがあるが、農産物の輸出額の半分を加工食品が占めている。本文案のP. 144では、品目別のグラフもあるが単年なので、加工食品の輸出額が時系列でわかるよう、農林水産物・食品の輸出額の時系列のグラフの中に、加工食品の数値も追加すると良いのではないかと。輸出目標の達成に当たっては、加工食品のウエイトは増々重要となってくる。

(秋元委員)

- ・前回企画部会で指摘した箇所について、対応いただき、感謝申し上げます。
- ・価格転嫁に関して、生産現場の実情がわかるような記載を検討いただきたい。原油価格の高騰等により、これから更に経営が厳しくなり、価格転嫁が急務となっている。コストが厳しくなると離農も進んでいくことから、価格転嫁を進める必要性について、消費者理解を得るためにも危機感を持った記載にしてほしい。

- ・ 前回企画部会で指摘した働き方改革の関係について、事例も交えて記載いただいているが、可能であれば週休二日制を導入しているなど、具体的な取組が記載されているとよりイメージが湧きやすくて良いと考える。

(稲垣(公)委員)

- ・ 前回の企画部会で、「将来の受け手が位置付けられている農地面積は約7割」である旨の記載は現場の実態と乖離していると指摘し、農林水産省において、「位置付けられていない割合が約3割」と修正したところだが、これも現場と実態が異なると考えている。農林水産省が昨年12月に公表した資料では、「地域計画の9割はやり直す必要がある」旨の記載もあったため、もっと危機感を持って記載してほしい。

(小針委員)

- ・ 1章3節の飼料自給率の図表について、図表内の■のサイズが大きく、増減が見えにくい箇所があるため、大きさを調整いただきたい。
- ・ 食料システム法、みどりの食料システム法のどちらにも「食料システム法」という用語があるため、読者はわかりにくいと感じると思う。みどりの食料システム戦略では「みどり戦略」となっているので、みどりの食料システム法も「みどり法」という記載に修正できるか検討いただきたい。

(齋藤委員)

- ・ 特集について、昨年12月時点の状況の記載にとどまっているように感じる。3月末時点でも産地に米の在庫はたくさんあるが、生産者は米の価格が安くなっているという認識はなく、増産に意欲を持っており、とても危険だと感じている。需要に応じた生産が重要だと思うので、このような生産者の認識や現在の民間在庫量、消費の動向等について、記載すると良いと思う。

(竹下委員)

- ・ QRコードもあって、非常にわかりやすい内容となっていると考える。
- ・ 事例について、全てを網羅することは難しいと考えているが、地元の事例があると白書に関心を持つきっかけになると思うので、各都道府県で1事例は取り上げることを今後の白書で検討してほしい。
- ・ 4章5節のP. 186から国産農産物の消費拡大に関する記載がされている。国内の需要拡大を行うことは非常に重要であり、農林水産省では様々な取組を行っているので、より記載を充実することを検討してほしい。GREEN×EXPO 2027は、花きや園芸文化、食をPRする絶好の機会であり、国内の知名度を上げるためにも、白書において、もっとしっかり書いても良いのではないか。

(稲垣(照)委員)

- ・ 毎回、白書の分量や見せ方の議論になるが、今回は昨年度と比べてコンパクトになり、分量が大きく削減された努力は大事である。ただ、その結果、我々が加入促進に取り組んでいる農業者年金のグラフがなくなってしまったのは忸怩たる思い。農業委員さんたちの間では、地域計画を進めるためにも農業者年金の話題を持って現場に入って行こうと盛り上がっているところ。

- ・同じく、市町村の公務員数の図表の削除は残念である。国の施策を最前線で支えている現場の市町村の公務員は疲弊しており、リソースが低下している。文章では記載されているものの、これを象徴するグラフが無くなったのは残念。
- ・地域計画の内容が伴っていないという意見があったが、この理由は、人員配置等の十分なリソースがない中で、2年間という短い期間で作成した結果である。現場で農政を支える人員は本当に大変である。
- ・小倉委員からの御意見で、農地改革という記載を農地解放にしてほしいとのことだが、「解放」とすると悪徳地主から農地をミゼラブルな小作農に売り渡したように読めてしまうが全部がそうではない。「解放」という言葉には価値観が含まれるため、「改革」が適切。戦後80年経っても地域によってはかつての地主が座る席と小作農が座る席があるなど、デリケートな内容であり、トピックスでは農地改革のままとしてほしい。

(井岡委員)

- ・前回指摘が反映されており、感謝。
- ・高校や大学の授業でも白書が使われていると聞き、理解促進のための工夫が感じられる。
- ・食料システム法に関して、本文案P. 174、概要案P. 41に記載されている飲用牛乳について、「成分調整牛乳を除く」という記載を「成分無調整」に修正いただいたが、より良い表現として「成分無調整のみ」としてはどうか。

(徳本委員)

- ・地域計画について、中国・四国地方では将来の受け手が位置付けられていない農地面積は6割。地域計画には土地改良を進める場の意味もあり、これが進めば担い手は確実に増える。地域計画がうまくいかない理由は権利者の細分化等であり、これから地権者が高齢化し一斉に相続が始まれば、更に細分化される。農林水産省だけで進めるのは限界がある。将来の受け手が位置付けられていない農地面積は北海道は9%であり、中山間地域は厳しい状況。危機感を伝えるためにも、中国・四国の数値を赤字にするだけで印象が変わるのではないか。3～5年後にはもっと厳しい状況となる。KPIではないが、地域計画の目標値を掲げ、それについて議論していくことが必要。
- ・多面的機能支払いについて、現状の予算や人員では中山間地では水路の維持等は限界の状況。国交省とも連携するなど、省を跨いだ施策も実施すべき。

(大吉委員)

- ・QRコードの掲載など、情報にアクセスしやすくして良い。
- ・米の在庫量が多くなっており、増産しても国内消費が伸びなければ価格が下落する懸念がある。現在4万トンの米の輸出量を2030年に40万トンへ拡大する目標も記載した方が良い。明るい見通しがあることも生産者に対するメッセージとして届けてほしい。

(宮島委員)

- ・見やすさについて、白書に着目してもらう入口でもある概要の中身が重たい印象。QRコードは、白書を一度でも読んだことがある人からすれば詳しい情報にアクセスできるものであるが、そもそもとして、白書の入口の工夫が必要。例えば、特定の分野に関心のある人に対し、白書のこの章節を見ればより詳細がわかるようにするなど、農林水産省ホームページのあらゆるところで、ホームページを見た人が白書の関連記載に誘導されるような工夫をしてほしい。
- ・メッセージ性について、白書の内容はフラットである必要があるが、地域計画については皆が共通で持っている危機感が伝わるように記載すべき。
- ・女性の活躍のコラム「日米比較」について、コラムを読んだ結果として何を伝えたいのかが不明である。何に問題意識があって掲載したのかを記載してほしい。
- ・全体の女性の活躍の書き方について、女性の農業委員の割合の目標値が30%と記載いただいたのは良いが、現状は14.4%であり、相当努力する必要がある。しかしながら小見出しを見ると、「〇〇に占める女性の割合は上昇」とあり、事実ではあるが、うまくことが進んでいるような印象となっている。また、現状値が目標値に近いもののみ記載し、遠いものは記載しておらず、都市部の女性がこれを見たら、農業はこれぐらいの認識でいいのだな、自分達が抱えている危機感と異なる、となるかもしれない。あえて悪く書く必要はないが、危機感があるところはしっかりと記載し、関係者間の問題意識が伝わるような記載にタイトルやニュアンスを見直すべき。

(南島委員)

- ・7点申し上げる。1つ目、注釈について。脚注と参考文献一覧との分け方の整理が必要。詳細は後ほど事務局に伝えておく。
- ・GREEN×EXPO 2027について、もう少し大きく取り上げてほしい。
- ・トピックス2について、本文P. 16で第二次世界大戦の記載があるが、日中戦争からのことではないか。
- ・P. 17の開放経済体制への移行の記載は、1964年のIMF 8条国移行、OECD加盟のことだと思うが、わかりやすく記載してほしい。
- ・P. 23でBSE等が記載されているが、消費者庁設置についても記載してはどうか。
- ・P. 26の昭和100年特集の最後の段落が、「関係者が一体となって」と締め括られているが、関係者という表現ではなく、国民全体の話ではないかと考える。
- ・P. 101の農林中金、農業近代化資金の法案提出の記載について、国会で審議中の法案のことをどこまで書くのか注意すべきと考える。

(堀内委員)

- ・酒米やGAPの記載を分かりやすくしていただき感謝。
- ・農作業事故について、高齢化が進んでいることに加え、中山間地域においては勾配があるところで農業機械を使用せねばならず、整備がされていないところでは水路を跨いで農地に入出入りするなど、危険である。どういうところで事故が起きやすいのかを注釈に書いてもよいのではないかと考える。また、乗用型トラクタの安全対策を強化と記載されており、トラクターのみ事故が発生しやすいように見える。田植機やコンバインの方が危険だと考えている。

(福田委員)

- ・概要はよくまとまっていて、本文は数値もあってわかりやすい。
- ・多面的機能の発揮については数値で測れないかもしれないが、ボリュームをもう少し増やしてほしい。

(中嶋部会長)

- ・イラン等の情勢により最近は、燃油、肥料が問題となっている。白書は3月末までの状況を踏まえて作成するものであり、それ以降の大きな情勢変化には言及できないだろうが、白書公表時には注目を浴びるため、どこまで追記するか事務局で検討してほしい。農業生産への影響は書いてあるが、食品業界の石油由来製品の不足についても懸念されているため、食料システム全体を踏まえたこの問題についても確認してほしい。
- ・概要のP. 18の各品目の生産動向では、果実の生産量がマイナス7.7%と大きく減少しており、驚きである。大豆や野菜の生産量減少も決して小さいとは言えない。これらは基本計画にも目標が設定されているところ。本文では、これらの大きな減少について、深い分析がされていないが、これらは企画部会や審議会でも議論することになっており、気候変動が影響しているのではないかと考えている。危機感を持って読み込んでいく必要があるのではないか。
- ・地域計画は、強い危機意識を持って進めている課題である。KPIにまで踏み込む必要はないかもしれないが、全体の進捗管理にも資するような形で今後まとめてほしい。今回直すようにということではないが、今後の課題として認識してほしい。

(植杉情報分析室長)

- ・赤松委員からの指摘で、トピックスと特集の関係性については、林業白書や水産白書でも昭和100年を取り上げることから、現在の整理としているが、さらに工夫ができるかは改めて検討したい。
- ・小倉委員の指摘で、用語の書きぶりについて誤りがないように、農林水産省百年史等の文献を参考にしている。
- ・我が国の気温の上昇の深刻化については本文P. 194に記載しているが、記載を見直してまいりたい。
- ・神農委員からの指摘で、雪害については7章で記載している。
- ・堀切委員と宮島委員の指摘で、概要の文字数が多いことについては、高校、大学での説明会や農林水産省内でも説明に使用しているため詳細な内容となっているが、整理について検討してまいりたい。
- ・輸出のデータについては関係部局と相談して検討したい。
- ・秋元委員からの指摘で、働き方改革に係る文言の追加については可能な範囲で対応したい。
- ・稲垣（公）委員からの指摘について、地域計画の現状の危機感が伝わるように、将来の受け手が位置づけられている7割ではなく、位置づけられていない3割について記載し、うまくいっていない要因を掘り下げたところ。書きぶりは再度見直したい。
- ・小針委員からの指摘について、グラフの見やすさについて見直してまいりたい。「みどりの食料システム法」と「食料システム法」の略称についても相談してまいりたい。

- ・齋藤委員からの指摘について、本文P. 8で米の在庫量が直近10年間で最も多い水準に相当する旨記載しているが、引き続き文章をブラッシュアップしたい。
- ・竹下委員からの指摘について、事例は、令和4年度白書から47都道府県の事例を1つ以上載せている。ウェブサイトでも各都道府県の事例リストを掲載しているが、分かりやすさについて工夫したい。
- ・GREEN×EXPO 2027については、公式キャラクターも取り上げて記載したところであるが、さらに充実できないか検討したい。
- ・稲垣（照）委員からの指摘について、農業者年金については例年記載しており、関係局と調整して記載する。
- ・井岡委員からの指摘について、飲用牛乳の記載を指摘どおり微修正することは問題ないと思われるので、対応したい。
- ・徳本委員からの地域計画に係る指摘について、意見を受け止め、記載をブラッシュアップしたい。
- ・大吉委員からの指摘で、米の輸出目標については、概要のほか本文P. 150に記載しているところ。
- ・宮島委員からの指摘について、白書のターゲットページを設けているが、読者が最初から白書を見るときは限らないことから、白書の各ページへの誘導の仕方を工夫してまいりたい。
- ・南島委員からは、後ほど別途御指摘をいただけるとのこと、これらを踏まえて対応したい。法案に係る記載は気を付けており、法令を確認する部署にも確認の上、過去の白書の記載も鑑みて現状の記載としている。
- ・堀内委員からの指摘について、農作業事故は、P. 131にコンバインやトラクターなど起きている要因を記載している。わかりやすくなるよう工夫したい。
- ・福田委員からの指摘について、今年度は多面的機能につき、貨幣価値換算に係るコラムを追加したところ。ボリュームを増やすことは、今後の課題とさせていただきたい。
- ・中嶋部会長からの指摘については、しっかりと受け止めてまいりたい。

（山口農産局農産政策部長）

- ・小倉委員からは、米の民間貿易と国内生産に関し、海外から米が輸入され、国内生産に影響を及ぼすことが懸念されるという記述を削除してはどうかと御意見いただき、神農委員からは、業務用需要が海外産に取られており、その需要の奪還が課題だという指摘があったところ。この点の懸念の部分があまりストレートに書いていないことから、懸念が何なのか、どういう対応をしていくかについて書きぶりを検討したい。
- ・大吉委員からは、米の輸出の目標値の言及がないと指摘があり、情報分析室長から先ほど説明をしたところであるが、これは輸出量の目標が入っていないという趣旨だと考えており、記載を検討したい。
- ・齋藤委員からの指摘に対し、作付意向調査の結果を見ると、加工用米や米粉、輸出など、需要があるところに対応する生産が行われてないという状況もあり、記載を検討したい。
- ・竹下委員や南島委員からのGREEN×EXPO 2027について、記載の充実を検討したい。

(杉中輸出・国際局長)

- ・堀切委員からの輸出データの指摘に対し、農産物、林産物、水産物それぞれに生鮮、加工品が含まれている。いわゆる農林水でどの分類が増えているかを見る目的で作られたもの。加工食品が多いことがわかるよう、記載を工夫したい。

(木村環境バイオマス政策課長)

- ・小倉委員からの指摘について、確認したい。我が国の平均気温の上昇についてはP. 194で記載しているが、世界の気温上昇についても記載するべきということか。

(小倉委員)

- ・我が国の気温上昇は、世界と比べてもかなり大きく上昇しており、国際的に見てもかなりシビアな状況に置かれているということが言えるのではないかと考えているところ。

(木村環境バイオマス政策課長)

- ・世界的にもここ三年間は過去最高水準で推移しているが、それと比較してもさらに我が国の方が大きく上昇したということか。趣旨は理解したので、記載ぶりを検討したい。
- ・小針委員からの「食料システム法」と「みどりの食料システム法」の用語を読み手に分かりやすくという指摘について、食料システムという言葉は最初に入れたのは、みどりの食料システム法だが、新たに制定された食料システム法の方が幅広い政策分野を対象としているところ。元祖であるみどり法について、読み手に誤解を与えてしまうようであれば記載を検討したい。

(宮本大臣官房参事官)

- ・中嶋部会長ご指摘の中東情勢について、相談窓口設置のみ記載しているが、現在、聞き取りによる実態把握や個別課題の解決、サプライチェーンの把握等に取り組んでおり、3月から対応しているものもあるので、記載ぶりを検討したい。
- ・竹下委員と南島委員から言及のあったGREEN×EXPO 2027については、本文P. 49に記載している。来年3月の開幕ということで、令和7年度は出展準備や機運醸成が主な取組であるが、どこまで記載できるか検討したい。

(岩間大臣官房審議官(兼経営局))

- ・稲垣(公)委員、稲垣(照)委員、徳本委員から地域計画について御指摘をいただいたが、まさに同様の問題意識のもと、将来の受け手に農地を集約化した目標地図を作成できた地域計画は約1割と記載しており、それ以外の9割についてはうまくいかない理由にフォーカスして記載しているところ。地域計画は継続的な見直しが必要であり、土地改良にもつながるため、市町村に加え、農業委員会、JA、土地改良区といった関係機関が一体となって進められるようにしたい。

(藏谷広報評価課長)

- ・御意見賜り感謝。修正内容は後日、事務局から連絡する。5月末の国会提出に向けて進めてまいりたい。

以 上